緑ネット通信 No.27

緑のネットワーク・まつど
代表：川上将夫　　年会費：1000 円
連絡先：高橋盛男 047-367-2857
渋谷孝子 04-7153-5392

里やま応援団　四季（よんき）の会
ホダシの森の「ひなたぼっこ」
レポート　川上将夫

「おはようございます」、駐車場に広がった落ち葉を掃き清めている方に声をかける。にこやかな笑顔が返ってきました。グループホーム「ひなたぼっこ」に隣接した「ホダシの森」は、小金原9丁目との地境にあり、里やま応援団四季の会が月２回保全活動を行っています。

2648平方メートルの森は、長らく荒れ放題となっていましたが、地権者の了解を得て07年からその保全活動を始め、ようやくの森の整備も一段落のところまできました。見事なイヌシデが多くみられる美しい雑木林となっています。

11月21日は「ひなたぼっこ」のみなさんを迎える特別の日。特に念入りに下草を刈り始めました。草刈機がうなりを上げ始めると、「ひなたぼっこ」の玄関扉から職員の方が顔を出し、「よろしくお願いします」と声がかかります。

これまで森の作業日には下草刈り、落ち葉掃除などでお互いに協力してきました。また散歩に出た入所者の皆さんは森で作業するグループに目をやり、一礼して応える。こんな光景が作業を始めた年から続いてきました。

それもあって、「ひなたぼっこ」のクリスマス会、お餅つきなどに招待されていた「四季の会」でした。こうした、おたがいさま、なじみの関係が続いていたことから、なにかお返しができないものかと考えるうち、入所者の皆さんを森にお連れして散歩を楽しんでいただこうという企画が持ち上がったと代表の中島さんが教えてくれました。

午前中の作業を終え、お昼休憩をはさんで、いよいよ入所者の皆さんをお招きする段取りです。コンクリートの歩道から土の森に入る際、くぐもるよ

うな声で「こわい」と声が聞こえます。車いすの前輪がやわらかい土にめり込んでコントロールが効かなくなったりして、皆さんにも不安な表情が表れました。日の当たる広場で小休憩です。森の風、香り、しばらくの間、皆さんを包んでいました。丸太に腰掛けた方が「小さい頃こうして遊んでいたわね」とひとこと口にし、「この木は何かしら」と好奇心を見せはじめました。少し森になじんできたようです。それから、森の奥へご案内しました。ヤブコウジの赤い実をつけた枝はお土産に、最初怖がっていたSさんの手に渡りました。つい二週間ほど前から咲き始めたフユザクラはTさんを飾っていました。森を入る時と出る時の表情の違いを四季の会の皆さんはしっかりと目に焼き付けていたようです。森林セラピーの効果も短時間の内に表れたのではないかと思わせる森の散歩でした。

「森の香りと風を楽しんでくれただろうか。この交流はこれからも続けたい」と代表の中島さんは2年半の活動を振り返り、「目標がはっきり見えた」と表現していました。

また会員の方々からは、「精神的にとてもつらい時期に活動に参加しました。でも森と皆さんに助けられ、立ち直ることができ感謝しています」、「植物や鳥が好きで会に参加しました。一緒に作業をしたり、お弁当を食べたりして、楽しんでいます」と、入会のきっかけや現在の思いなどをお聞きしました。

会員のみなさん全員が、「ひなたぼっこ」の入所者はもちろん、近隣にお住まいのかたたちにも「いこいの時」を持ってもらえるようにしていきたいと、これからの森の活動に意欲を燃やしていました。

この身近な「ホダシの森」が

永遠にこの地に残り、憩いの場として益々活かされるよう願いつつ、森をあとにしました。

最後に会の紹介です。

2007 年3月「松戸里やまボランティア入門講座」四期修了生により設立

代表：中島敏夫（047-364-4547）

会員：10名（女性6名男性4名）

定例作業日：月2回（第一、第三土曜日）

「花王・みんなの森づくり活動助成」の支援を受けています。

観察学習会 26
「富士川から本土寺斜面林 市境のみどりを訪ねて」

報告: 藤田 隆

10 月 11 日（日）朝から快晴の北小金駅、集合時間前に十数人の姿が駅西口駐輪場にかたまりはじめ、9時 30 分には 44 人が集まり大部隊となった。「富士川から本土寺斜面林＊市境のみどりを訪ねて」のテーマがついた観察学習会は、小金城、根木内城、前ヶ崎城に囲まれた低地部分の真ん中を横断するように流れる富士川をたどりながら、松戸市と流山市の斜面林をたずねるコースになった。

戦国時代の3つの城は形をとどめていないが、舌状台地をそのまま使った城跡が公園化されたため、戦国時代にあったであろう姿に想像をめぐらすことができる。散歩コースのポイントにもなっていて、市民に親しまれている。

観察会の一団は北小金駅西側から常磐線に沿って 10 分ほど歩き、富士川親水広場で足を止めた。広場は上富士川、平賀川が合流し、坂川へ流れ込む富士川の浄水施設としての役割を持つこと、また富士川には景観や生態系を考えた河川改修で自然が舞い戻ったことなどの説明を受けた。広場からの風景は断面できってみると、松戸市の舌状台地のへりが谷津田になって低地の部分が続き、富士川をこえて流山市側の台地につながっているようだ。360 度のパノラマは、松戸市が斜面を住宅地として利用したのに対し、流山市は急峻なあまり斜面林として残しているという違いが目の当たりにできる。

川岸にはアレチウリが繁茂し、他の植物を寄せ付けない勢いで、追いやられるように中洲にミゾソバ、オギ、イネ科植物、川の中にはカルガモ、ミシシッピーアカミミガメ、ボラやコイなどが生育している。この日は目にできなかったが、カワセミも見られるということだった。羽中橋を東に渡り流山市に入ると、斜面林のみどりの厚みが実感できる。利用するには厳しいほど切り立った斜面にはムクノキ、エノキ、シラカシ、クヌギなどが木陰をつくり、汗ばんだ首筋あたりを初秋の風が通り過ぎて、照り返しで火照った体を癒してくれた。前ヶ崎城近くのビューポイントから松戸市側が臨め、住宅地に囲まれる本土寺の森を眺めることができた。

前ヶ崎城跡の西側を通り、富士川3号橋を松戸市側へ渡ると、ほどなく幸田台地の切り立った斜面にはめ込まれたように幸田湧水が水を湛えていた。この湧水もゴミがたまっている様子もなく、整備が行き届いている。湧水からあんず通りを南下し、幸田第二公園で休憩をとり、シイの実、カヤの実を味見して楽しんだ。幸田第三公園ではシラカシ、コナラ、クヌギの樹皮の違いから見分け方を教えてもらった。第三公園から本土寺斜面林までの道には、わずかに残された猫の額ほどの樹林が切り開かれ、一抱えもある樹木が十数本横倒しになったまま、やがて住宅地に変わるのを待っているかのようにさらされている姿を目の当たりにした。観察会の最終ポイント本土寺斜面林には、松戸市では珍しいハシバミがひっそりと生きていた。

斜面林から小金北市民センターへ向かい昼食を取った後、学習会では感想を聞いた。幾人かは地元富士川の遊歩道をウオーキングに利用している様子で、植物や生き物をもっと観察しながら、新しい目で散歩を楽しみたいと感想を述べていた。

観察会事務局から、松戸市の「みどりの市民憲章」を具体化する作業として、みどりの景観マップや生態的エリアマップなど5つのマップづくりをしたこと、豊かなみどりを残す流山市斜面林と開発の進んだ松戸市の斜面という対比は、生き物の環境としてどうなのかということを考えさせられる。と説明すると、参加者から「樹林地を買い取って保全してはどうか」、「富士川のほとりにサクラを植栽し、みどりを増やしてはどうか」などの提案がなされた。

流山市側から松戸市の斜面を遠望

松戸のみどり 再発見ツアー①
「知られざる千駄堀の魅力を発見」に参加して

吉田 堯

11月29日の日曜日、お天気が心配されましたが、やや風が冷たいところもあったものの、日の中は程ほどのお天気でブラリブラリには好都合の一日でした。「みどりの行動会議」と松戸市の主催で市民に市内の「みどり」を再発見してもらおうという企画だそうです。市の職員の方も休日にもかかわらず5～6人の大動員ということでご苦労様でしたが、当会のメンバーはじめ市民ボランティアも重要な役割を果たされていました。いい形での市と市民の協働イベントということでしょう。

朝9時半に、新京成電鉄の八柱駅に皆さん、いつもの緑ネット観察学習会のようにお弁当、お茶を持参での集合でしたが、参加者が多かったですね。50名以上の大部隊になりました。年配者が多いのはいつもの通りですが、地元の大学生などの若手も少なくなく、まずは多彩な顔ぶれでの出発となりました。

正直のところ、「千駄堀」といいましても、いったいどの辺りなのだ、そんな適当な行き先があるのだろうかという気持ちもありましたが、ところが違うのですね。ちょっとしたところに入っていくと、様子は一変してしまうのです。標高30メーター位の地域なのですが、5～6分も歩きますと、たちまち自分が松戸市内にいることを忘れさせるところに入り込んでしまいます。柵囲いがしてある扉を抜けると、そこは、別世界でした。私の田舎の世界に迷い込んだようなものですが、「ネットワーク」の先輩が、いつものように道々の樹木や草花などについて実に事細かに解説してくれるのです。大したものですね。その知識の深さには感心させられます。
この解説がないまま歩いていたら、楽しみが半減すること請け合いでしょう。

そして、林を抜け、葡萄畑を抜け、坂道を降りていけば、それはもう、すっかり里山の世界でした。まことにノンビリのどかな世界でした。周りが樹木に覆われた中に、ぽっかりと畑が広がり、農家が点在していました。

松戸市は緑地化率は数パーセントということです。千葉県では浦安市、市川市についでワーストの3番目ということですが、しかし、それでもこれだけの緑が、あるところにはある、のですね。でも、話しは簡単ではない様です。緑は土地の付いた不動産ですから相続という問題はあるし、そうした言わば非常時だけでなく、平時にてもこれを維持するのは容易ではありません。実際、トタンの垣根の向こうの林の中にはゴミが散乱していました。きれいだなと思うところは、少し前にボランティアの皆さんが清掃したばかり、というのが実情です。下草刈などの作業もあるでしょう。でも、こうした緑は資産価値はあっても、日常的には単なる金食い虫でしかないのですね。所有者にとっては、相続者にとっては、頭の痛い持ち物でしかないのかもしれません。

こうした緑の保存は簡単なことではありませんね。でも、人間にはこうした環境は不可欠なものなのでしょうね。 CO_2削減という「科学」的な課題だけではない、のでしょう。

地域が、自治体が、もう少し組織だって体系的にその保存に向き合って行く必要があると思われます。

里やま応援団が共同で取り組む「秋山の森」

野口功

松戸里やま応援団の活動が始まって 6 年。毎年の講座を経て活動が広がる中で、それぞれのフィールドで活動するだけでなく、応援団全体の力で森所有者の要望に応えて整備に取り組む新しいパターンの活動がうまれています。その第一弾「八幡腰の森」に続いて、「秋山の森」でも活動がはじまりました。

新京成バス松戸南高校入り口のバス停前。もともとは地主さんのお屋敷があった約1㌶森です。直径 50cm以上もある太いクヌギや、威風堂々たるサワラの巨木が生い茂る台地、立派なモウソウチクに覆われた斜面、低地にはマダケの林、

草地など変化に富んだ森です。屋敷跡の広場には、きれいな水を満々と湛えた井戸があり、竹林の中には自然の池も。手入れをすれば素晴らしい森になるとても魅力的なところです。

昨年 9 月からの活動で、成果も現れてきました。
①駐車スペースの確保、②フェンスに絡んだつる草の除去、③フェンス沿いの除草、④ごみの収集撤去、⑤隣家にかぶさる竹の除伐と竹柵の設置、⑥隣畑に接する藪の除草、⑦畑の上まで伸びた枝の切除、⑧ごみの収集など。

月2回の活動には、毎回各グループから 15～6 人が参加。八柱から車の乗り合いをするなど、新しい試みも行っています。

三樹の会、ミニ門松つくり講座

早川 勝

三期の会では、ゆいの花公園と三吉の森でミニ門松つくり講座を開催しました。ゆいの花公園の実施は松戸市役所

公園緑地課と協働開催で、まつど広報に定員 15 人を募集しました。当日は家族ぐるみの参加が多く、せまい会場は大賑わいでした。会員10名の指導のもと、怪我もなく見事に完成しました。作品を前に全員で記念撮影を行い、一対の作品を持帰りました。満足してくれたと思います。

三吉の森の実施は、地域の方、応援団の仲間を対象に、掲示板・郵便局・農協へポスターと口コミで、一般13名、里やまの仲間9名、三期の会スタッフ19名の総勢41名が森の前庭で行いました。地主さんの叔母さんとお友達等年輩の方女性の参加が多く、スタッフがお手伝いしながら完成しました。昨年の反省から教え方の統一、事前にスタッフ講習で技術力アップの勉強会を行いました。材料も事前に小分けして準備したお陰で、十分な対応が出来ました。今回は時間の余裕があり作業中や完成後、参加者の皆さんと会話をする時間もありました。希望された方には、森の中を案内し、癒されるとの感想や整備作業への感謝の言葉を戴きました。地域の人に喜んで貰える森にしたいと思っている我々にとって森の恵みの竹を使って工作を楽しみ喜んで貰い、森の良さを認識していただいた有意義なイベントだったと思います。これからも作業に支障のない範囲で継続してゆきます。

～しぜんのコラム⑨～

ふゆめがっしょうだん

福音館書店は子ども向けの良質な本を数多く出しているが、その中に「ふゆめがっしょうだん」という本がある（冨成忠夫・茂木透＝写真，長新太＝文，かがくのとも傑作集 34，1990 年）。

……みんなは みんなは きのめだよ
はるに なれば はが でて はなが さく
パッパッパッパッ……

生き物たちの気配が乏しい冬、樹木の冬芽を拡大してみると、それは帽子をかぶった子どもの顔に見えたり、動物の顔に見えたりする。冬の自然観察の、ひとつの楽しみが、冬芽探し。

たとえば、ニワトコやクズは、寝ぼけた子どもの顔に見えるし、カラスザンショウはサル、オニグルミはヒツジの顔に見える。

ニワトコ　クズ　カラスザンショウ　オニグルミ

帽子の部分は冬芽。顔の部分は“葉柄痕”、つまり葉の落ちた痕で、目や口のように見えるのは、水や養分を送るパイプの断面である。

さて、次の冬芽は何に見えるでしょうか？

アジサイ　ゴマキ　サンショウ　クサギ

（山田純稔）

松戸のみどり　再発見ツアー②＆クリーンアップ（観察学習会 28）

「千駄堀＊森の自然観察＆クリーンアップ」

次回の観察学習会は松戸市みどりの行動会議の再発見ツアーの第２弾として行います。「市内で一番大きなみどりのかたまり」の千駄堀の森。不法投棄のゴミで汚れているのは残念なことです。みどりを愛する市民の力で、今年もきれいにしましょう。午後は室内で振り返りの学習会です。

２月 １４日（日）　９：３０～１４：００　小雨決行

集合　新京成線　八柱駅北口　　**持ち物**　弁当、飲み物、軍手など　**参加費**　100 円（会員は無料）

お問い合わせ　080-5080-9910　渋谷　　※終了後定例会をいたします。どうぞご参加ください。

緑ネット通信 No.28

緑のネットワーク・まつど
代表：川上将夫　　年会費：1000 円
連絡先：高橋盛男 047-367-2857
渋谷孝子 04-7153-5392

松戸のみどり 再発見ツアー②
「千駄堀＊森の自然観察＆クリーンアップ」 報告
あっという間に森がきれいに！

藤田隆

第２７回緑のネットワーク・まつど定例の観察学習会は「松戸市みどりと花の課」「みどりの行動会議」とタイアップし「松戸のみどり再発見ツアー」の第２弾として実施しました。これは「緑の市民憲章」に基づき実際に行動しようと、行政と市民が一緒に行っている取り組みです。

２月 14 日（日）八柱駅に集まったのは34人の皆さん。最初は2つのグループに分かれて、草花、樹木を観察。2月はヒメオドリコソウやホトケノザなど以外は観察するものがないかと思っていましたが、案内役の方が「冬芽には4種類あるのですよ」と注意を喚起させました。「セレブの冬芽、ヤンキーの冬芽、スパルタの冬芽、過保護の冬芽」と話し始めると、皆さんの目は冬芽に釘付けになりました。しっかり重ね着をしている「ニワトコ」は過保護タイプでした。道みち千駄堀の小径が夜にはカラスの寝床になっているエピソードを聞きながら、里やまV（ファイブ）のフィールドに到着しました。

過保護な？ニワトコ

れし、日の光がたっぷり降り注ぐ広場に案内され、手入れのことや樹木の様子の話を聞きました。木々の枝の伸び方に感心していると、「枝と枝が重ならないように枝を伸ばしています」との解説が聞こえ、少し神秘な樹木の性質に感心しました。

そしていよいよ隣の場所でクリーンアップの開始。皆さん現場に入るやいなや、森の奥から次々に粗大ゴミやゴミ満杯の袋が出てきました。ネコ車も大忙し。20分、30分、40分と経つうちに集積場所には、森に廃棄されたゴミたちが山のように。燃えるゴミ、燃えないゴミほか合わせて計47個！　最後の集合写真で、皆さんのすがすがしい笑顔が見えたのも達成感からなのでしょう。クリーンアップの最中には近所の方からもご挨拶をいただきました。これも里やまＶの日ごろの活動を見ているからなのだろうと心強く思いました

午後は昼食後に学習会を実施。年々減り続ける市内の緑をどうしたら将来に残せるか、地権者を応援するために何ができるか、ゴミ対策には知恵を使えばより有効になるなどの意見が交換されました。一朝一夕にことが動くとも思われないが、それでも私たちの活動が、一歩一歩地道に仲間を増やし、地権者との連携を深めていることを確信した一日でした。

松戸のみどり 再発見ツアー②
「千駄堀＊森の自然観察＆クリーンアップ」に参加して

吉田 堯

参加された会員から感想を寄せていただきました。

２月14日といえばバレンタインディー。私の場合は、仕事を引退してからというもの「義理」も届かなくなりましたが、それもさっぱりして悪くはないかと諦めの境地？のこの頃であります。冗談はともかく、この日は物好き？な市民が集まって運営している「緑のネットワーク・まつど」主催の「松戸のみどり　再発見ツアー」第二弾に参加しました。昨年11月の第一弾にも参加しているのですが、この日はほぼ同じコース上にある森のクリーンアップが主な内容でした。

午前9時半、集合場所にはたくさんの参加者が。ゴミ拾いという「労働」をものともせず、厳冬のこの季節によくぞこれだけ集まったという感もあります。それにしても寒い日でした。この時期ですから寒いのは当たり前ですが、吹き付ける風の冷たさにブルブル。しかしゾロゾロと一度歩き始めれば寒さも何ということはありません。

今回も、会の先輩女性（年上という意味ではありません、念のため）が、目的地に着くまでの間、道端の植物について何かと解説してくれるのです。その博識振りにはいつものことながら感心することしきり。

人間もそうなのでしょうが、植物の生態というのも誠に不思議なもので、自然に見事に適合してその生存を確保していく、その逞しさには何故か心打たれるものがあります。

松戸市は、千葉県では樹林地面積の比率が浦安市、市川市についでワースト3ということですが、それでも武蔵野線・新京成線の八柱駅から10分も歩かないうちに、山の中に入ってしまうのです。都会にいることを完全に忘れさせ、ほとんど人家のない世界になってしまうのです。たまに見えるのは農家風の特徴をもった立派なお宅です。都会のお山は、こうした皆さんのどなたかが所有されている緑地です。

しかし、この緑地、なかなか厄介な代物のようです。以前は薪にするとか、建築材にするとか用途は様々ありましたが、今山は役に立たないのです。手を入れてもコストに見合わないのですね。

それどころか、樹木の傍の家からは木が伸びて煩い、落ち葉がどうだという苦情が出るのも決して珍しくはありません。問題はこれに止まりません。例えば相続です。都会の山地といっても、相続税を免れることはできませんし、物納の場合は更地にしないと受け取ってくれないこともあり、都会の緑は縮小するばかりです。

加えて、ゴミの問題。森の道路隣接部には大量のゴミが捨てられていて、土地所有者の頭を悩ませています。この悩みを少しでも取り除き、土地所有者の方々を応援しようと企画されたのが今回のクリーンアップでした。

さて森での収集ゴミの総量は、可燃ゴミ、不燃ゴミ、タイヤ、鉄くずなど・・・47個。いやはやすごい量。でも、学生らしい青年も含め、どこのどなたとも知れない皆さんが互いに協力し、雨の後の足場の悪い斜面などの木の枝を掻いくぐりながら、実に熱心に作業に取り組んでいました。これはちょっと不思議な光景。

今の世間は冷たいと嘆きがちになる風潮がありますが、決して捨てたものではないようだ。少なくない人が、そうしたきっかけを待ち望んでいるに違いないと感じさせられました。そういう意味でも、粘り強く活動を続ける「緑のネットワーク・まつど」の役割は大きいと思います。

熱心にゴミ拾いに取り組む心意気と、見違えるほどきれいになった森、この二つにいたく感動した一日でした。

最後に一言。この日の反省会のときに、会の先輩女性から「義理チョコ」をご馳走になりました。ありがとうございました。

「みどりと花のまちづくり」研究・活動報告会 2009
松戸の里やま保全活動が園芸学部生の卒論テーマに
「所有者との信頼関係のもと、長期プランの共有を」

研究・活動成果をみんなで分かち合おう

3月 24 日(水)、松戸市勤労開館において「みどりと花のまちづくり」研究・活動報告会 2009」が開催されました。

この報告会は、千葉大学園芸学部の学生による松戸をテーマとした研究について、その内容を知りたいという市民の要望と、協力していただいた市民・行政と研究成果を分かち合いたいという同学部の思いが重なり、実現されたもので、昨年に続き、今回が2回目の開催となります。

研究報告は、以下の卒業論文3題、これに加えてISO学生委員会が取り組んでいるコミュニティーガーデン活動(発表者:杉山愛子さん)、みどりの行動会議による「松戸のみどり再発見ツアー」の活動(発表者:柳井重人さん)ほか、みどりと花の課やみどりと花の基金の取り組みも紹介されました。

【研究報告】

①**「千葉県松戸市における街路樹管理の実態と課題に関する研究」**野中孝輔さん(緑地・環境学科4年)

②**「東京近郊市街化調整区域の空き地の空間特性に関する研究」**増田恵さん(緑地・環境学科4年)

③**「民有樹林地の保全活動の実態と展開“松戸市の里やま活動を事例として”」**門田さやかさん(緑地・環境学科4年)

活動の輪を広げる仕組みと所有者からの信頼が要

これら研究報告のなかで③は、門田さんがこの1年をかけて私たち里やま活動グループや樹林地の所有者を訪ね、また自身で活動も体験してまとめた卒業論文です。

門田さんによれば、2010 年 1 月現在で松戸市内では、10 団体で 160 人と 200 家族が民有樹林の保全活動に参加しており、活動樹林地の面積はおよそ9ha におよんでいるとのこと。松戸における民有樹林地の保全活動は、市民団体、行政にとどまらず、テント小屋のような中間支援組織や、山林所有者による「ふるさと森の会」など、多様な主体が関わり合いながら活動を展開してきたこと、そして「里やまボランティア入門講座」により参加の輪を広げ連携していく仕組みをつくってきたことに特色があるとしています。

発表のなかでも注目されたのが、所有者 2 名へのヒアリング結果。当初は「近所とのトラブルが起きないか」「居つかれてしまったらどうしよう」という不安を多少なりとも抱いていた所有者が、実際の活動に触れて「統制がとれていてきちんとしている」「(森を管理する)労力が省け、(森が)綺麗になったし、緑も残せるし、一石五鳥くらい」と、私たちの活動に対し、高い評価の声が寄せられていました。

門田さん

この所有者と活動団体の信頼関係と、実際の管理状況に対する所有者

の満足度の高さが、松戸の里やま保全活動を支えている大きな要因と、門田さんは述べています。

ふだん活動に汗を流していても、それが関係者にどのように評価されているかは、なかなか図りにくいもの。こうした客観的な調査・研究により、それが明らかにされていくことは、私たちにとっても大きな励みになりますし、活動を振り返る良い機会です。

最後に松戸における里やま保全活動の課題が、ふたつ提起されました。ひとつは、現在 2 つの森で実現している所有者と団体間の活動協定の締結を、さらに進め内容を充実させていくこと。もうひとつは、民有樹林地の一般開放をも視野に入れて、「所有者と団体が長期的なプランの共有」を図っていくことです。

たしかに、所有者と活動団体の間で、長期的に見てどのようなかたちで樹林地を残していくのが好ましいかという話し合いは、まだあまりされていません。また、活動をする私たちのほうでも、長期的な活動プランの組み立ては立ち遅れている部分。この指摘は重く受け止めたいものです。

研究報告をした門田さんら4年生は、報告会の前日が卒業式だったそうです。にもかかわらず、この報告会に時間を割いてくださったことに感謝します。こういう機会も、年を追って成長していったら、おもしろい官民学の協働の場になっていくのではないかと思いました。　　（高橋盛男）

関さんの森　経過報告と今後

関さんの森エコミュージアム　武笠紀子

昨年 9 月の通信 26 号で、9 月 10 日松戸市と地権者関さんとの間で覚書の調印がなされ、迂回道路の線形が確定し、関さんの自宅庭の門・蔵、生垣、熊野権現も含め「関さんの森」は大きな塊で残されることを掲載しました。今回はその後の経過や今後の計画についてお知らせします。

埋蔵文化財調査

道路予定地における埋蔵文化財の調査が昨年12月より開始されています。現在梅林や子どの広場には、防護柵が設置され作業が進められています。防護柵とネットで囲まれていますが、外から調査の様子を眺めることができます。なかなか体験できないことですので、森を訪問の際は是非ご覧ください。

樹木の移植

道路予定地上の樹木の移植準備が始まりました。特にケンポナシは樹齢 200 百年をこえる古木ですので、極めてむずかしい移植作業となります。その根回し（1 回目）が2月下旬に行われました。まず今回は周囲の半分を、そして来年冬には残り半分を根回しし、その年の秋に移植の予定です。移植場所は現在地から約20M離れた梅林です。移植が無事成功するよう、どうか皆さんも応援してください。

関さんの森保全に関する覚書

迂回道路線形については昨年の 9 月に覚書が交わされましたが、このたび新たに「関さんの森保全に関する覚書」が 3 月 30 日に結ばれました。これは今後森の保全を松戸市、地権者、関さんの森関係者が、どの様に協力して進めて行くかを定めた極めて重要な取り決めです。私たちはこの覚書に基づき、関さんの森が永遠に里山としてこの地にのこり、身近な市民の憩いの場となるよう努めてまいります。

「第3回みどりと生きるまちづくりフェスタ」

3月28日（日）大変寒く百年桜も蕾のままの中で、3 回目のフェスタが開催されました。文化財調査のため広場や梅林が殆ど使えず、規模を縮小して開きましたが、寒さにもかかわらず多くの方が来場されました。来年の今頃は、おそらく周辺は道路工事のため大きく姿がかわります。現在のような森の姿でのフェスタも今年が最後かと思うと、心中複雑なものがありますが、道路建設の状況に合わせたフェスタが来年もできたらと思います。

以上が今回のご報告です。引き続き皆様のご協力・ご支援を心よりお願いいたします。

特集

里やまＶ（ファイブ）・千駄堀

代表：大石　愛祐

「里やまボランティ入門講座 2007」の修了生が活動を始めたグループ「里やまＶ」の代表大石さんに森や活動の自己紹介をしていただきました。

1 しんやまの森の紹介

場所:松戸市千駄堀 868、869(八柱駅北口から徒歩 8 分相田ぶどう園向かい)

概要:約 4,800 平米。平地部分と南西向き斜面のある落葉樹林。大きなヤマザクラが 1 本ある。

魅力:周囲は森と畑に囲まれて本来の里山の雰囲気が漂い、市の中心部とは思えない別天地。八柱駅北口から 21 世紀の森にいく途中にあり。

活動:2008 年から、新山町会とも連携して月に 2 回、第 2、第 4 火曜日が定例活動日。

2 活動状況の経過の概要

2008 年 4 月から活動を開始し、スタート段階では松戸里やま応援団グループの皆さんの応援を仰ぎごみ拾いを実施、その後、新山町会長さんを初めとし、町会のご協力、地元会員の多大なご支援もあり、早めに活動も軌道に乗り、現在は地元会員も含め、22 名の会員で整備活動をしている。

今日に至る間、緑ネットの定例活動でしんやまの森周辺の千駄堀クリーン作戦の展開で、ごみ拾いをしていただいてきているお陰で周辺の森の姿も当初に比べ非常に明るく変貌しつつあり、森の持ち主さんや地元町会の方々からも喜ばれて来ている。

2009 年度は(財)都市緑化基金から森の整備活動に対しての助成金をいただき、活動に弾みがついてきており、2010 年度は愈々将来にむけての拠点作りに入る予定。

今後も 活動を楽しみながら、地主さん、地元の方々を始めとし市民の方々にも喜ばれ愛される森であるよう活動を展開して行きたい。

～しぜんのコラム⑩～

てんとう虫のサンバ

冬の間は集団越冬していたテントウムシ(ナミテントウ)がそろそろ活動をはじめる。

低温だと活動できないこともあるが、そもそも冬の間は餌のアブラムシも少ないから、活動しても意味がない。もっとも、ナミテントウは冬の間、温度変化の少ないところに移動して、ぐっすり“冬眠”しているが、ナナホシテントウは“仮眠”程度で、むしろ夏の方がぐっすり“夏眠”している。

ところで、テントウムシといえば「てんとう虫のサンバ」という歌があるが、機会があったらテントウムシの交尾シーンをじっくりと見てほしい。なんと、オスが腰を振って、まさに“サンバ”を踊っているように見えるのである。新郎新婦を囲んで「てんとう虫のサンバ」を歌うというのは、二次会ならいいとしても、親戚や上司のいる前では、いかがなものかと思う。

ナミテントウの交尾
(2009. 4. 19 山田純稔, むつみ梅林にて)

ちなみに、写真のナミテントウは雌雄で模様が違うが、これでも同種。ナミテントウには、二紋型・四紋型・紅紋型・斑紋型など多様な変異があるが、異なる模様どうしでも交尾する。

なお、テントウムシを口に入れると苦い。脚の関節から苦い液を出すのだが、これは天敵から身を守るため。天敵には、苦い味と模様を記憶させるため、わざと目立つようにしている。 (山田純稔)

松戸のみどり 再発見ツアー⑤(観察学習会 29)

「高塚～秋山 新緑の森を巡る」

次回の観察学習会は松戸市みどりの行動会議の再発見ツアーの第 5 弾として行います。市民ボランティアが保全活動をしている3つの森を訪ねて、新緑の森を観察しましょう。午後は室内で振り返りの学習会です。

5 月 9 日(日) 9:30～14:00 小雨決行

集合 JR武蔵野線 東松戸駅改札口 **持ち物** 弁当、飲み物、雨具 **参加費** 300 円(会員は100円)

お問い合わせ 080-5080-9910(渋谷)

※終了後に総会をいたします。どうぞご参加ください。

緑ネット通信 No.29

緑のネットワーク・まつど
代表：川上将夫　　年会費：1000 円
連絡先：高橋盛男 047-367-2857
渋谷孝子 04-7153-5392

松戸のみどり　再発見ツアー
「高塚～秋山　新緑の緑を巡る」

藤田 隆

５月９日武蔵野線東松戸駅、集合時間の９時３０分には 60 名を超える集団に膨れ上がりました。３グループに分かれた再発見ツアーはコースの説明を受けて出発しました。武蔵野線を西船橋方向に沿って農地脇を行くと、フェンスに小さな実をつけたアケビが蔦を絡ませ、畑の向こうに開花中のキリ、フジの薄紫が緑に映えて、いっそう美しい森が現われました。緑ネットの仲間内で「サイカチの森」と呼んでいる貴重な森です。この森も南側から売り出し中の墓地用地が広がり、直前まで迫っていました。

街道を渡り、みどりが濃くなり始めた小浜屋敷の森に到着しました。「小浜の森の会」の角田代表、松田さん、横山さんが森を案内してくれました。２年前の里やまボランティア入門講座第６期の修了生が森の手入れにあたっていました。森の中に入ると急に斜面が落ち込む傾斜地のため、手入れにも苦労の跡が見られました。イヌザクラが満開の時期を過ぎ、花びらが静かに落ちてきました。

普段目にすることが少ないだけに「サクラが小型になっている」と、しばし観察タイムになりました。ウラシマソウ、ホウチャクソウ、キンランなどが咲き誇っていました。樹々が密生してケヤキとムクノキが抱き合わせになって伸びている珍しい姿も見られました。

小浜屋敷の森から梨香台ゴルフセンター脇を通り、高塚八幡神社へと向かいました。神社参道脇の森を里やまボランティアが手入れし、見通しも、風通しも良い森になっていました。里やま応援団の深野さんの説明によると、この森は手入れは一段落し、今後は見回りをして必要に応じて臨時活動をしていくとのことでした。神社でお参りした後に向かったのは秋山の森でした。

途中立ち寄った聖徳学園の裏手に、秋山湧水池が現われました。地元自治会の皆さんでこの湧水を守り、夏にはホタルが乱舞する姿も見られるようです。鯉も放されていました。北総線のガードをくぐり秋山の森は車の往来の激しい道路に面していました。個人所有の屋敷跡で、竹林は日の光が地面まで届かない状態でした。こちらも里やまボランティアの皆さんの手入れが始まってようやく８か月が過ぎ、竹林伐採など森の保存を討議しているとのことでした。なだらかに斜面になっているため、下のほうに湧水が湧きため池の状態も見られました。これからどんな森になっていくのか楽しみな森でした。森の広場では日の光が降り注ぎ、思い思いに昼食をとる姿も見られました。

午後の学習会は本日のツアーの印象や里やまボランティア活動についてのアンケートをもとにテーブルごとに話し合いの時間がもたれました。参加者からは、「松戸市内にある森に初めて訪れた」、「森がこんなにあったことに驚いた」、「森で食事ができてよかった」などの率直な感想が出てきました。里やまボランティアについては、「市民でまちおこしができないか」、「もっとＰＲしたら良い」、「タケノコツアーなど企画してはどうか」、「子どもたちが参加できるような企画はないか」、「緑が残せるような法整備などの工夫はないか」、「若い人が加われるような仕組みができないか」など積極的な意見が披露されました。

松戸のみどり 再発見ツアー第五弾、
大盛況でしたよ！

吉田 堯

集合は東松戸駅。出発後、例によって諸先輩がしてくれる解説に耳を傾けながらブラブラ３０分位行くと、森で枝打ち等の世話をされているボランティアの皆さんが待ち受ける「小浜屋敷の森」にご到着です。

「小浜屋敷」の「小浜」は地名であって持ち主の方のお名前ではないのですが、しかし地名としてどこか味があって面白いものですね。ともかく、このボランティア

の皆さんは、地主さんの了解の下に他人の森を世話しており、いわば「押しかけお世話人」のようなものですが、腰には鉈を差し、ヘルメット姿も勇ましく、知らない人が見れば、その方面の本職と見紛うかもしれない出で立ちで私達を迎えていただいたのです。お話を伺った後、みんなで森の中にゾロゾロと入っていきました。い～ですよね、この半堆肥状の落ち葉を踏みしめるとザザッと音がして少し沈むような感じ、土の柔らかさも伝わってきましたね。

次の目的地は神社の脇にある「八幡腰の森」。この地名も・・・どことなく味わいがありますね。こういう地名が残っていること自体、今では一つの奇跡かもしれません。多くの里山グループが協働でお世話をしている森だそうで、脇は宅地ですからご近所からも感謝されていることでしょう。

そして最後の目的地は「秋山の森」。周辺は塀の向こうの端が見えないほどの広大なお屋敷が点在しています。「秋山の森」もかつてはそうしたお屋敷の一つでしたが、屋敷は既になく屋敷林だけが残っているのみ。以前は母屋のあったところが、ポッカリと空き地となっています。孟宗竹が風に揺られて奏でる自然界のメロディーに身を任せながら、この空き地で汗を拭き拭き食べたお弁当の美味しさは、この上ないものとなりました。

今回のコースは結構な距離で、総歩数は１万３千歩を超え、散策としては十分に満足できるものでした。それにしてもいいお天気でしたね。私も疲れましたが、関係者の皆様、参加者の皆様、誠にお疲れ様でした。

総会のご報告と新年度のご挨拶　　川上将夫

皆さんこんにちは。5 月 9 日の総会で今年度の役員が決まりました。大部分の方々が再任となり、私も引き続き代表をつとめさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

市内に残されたわずかな樹林を後世に残すため、私たちは、市民・行政・地権者間の協力・連携を進める役割を担いながら、「継続こそ力」を信じ息の長い活動を続けてまいります。

根木内歴史公園
田植え作業とお餅つきのお楽しみ会

5 月 15 日（土）　根っ子の会　三嶋秀恒

公園は、「歴史とみどりと水の調和」をテーマとして、4 年前の 2006 年４月に開園しました。この公園を「身近な自然とふれあえる場」として、広く市民に愛され、活用される公園となるよう、根木内歴史公園サポーター（根っ子の会）が活動をしています。

公園の湿地帯は上富士川の氾濫源で、昭和 40 年代前半まで稲作が行われていました。河川改修の泥や石が上げられ、ヨシやガマの根が蔓延っていたために、田んぼ造成には結構な労力が必要でした。湿地パーゴラ前に畦道で囲った約 88ha の田んぼには、もち米「満月」を霞ヶ浦の茨城農協から分けてもらい、5 月に田植えを実施しました。田んぼ作業用の長靴を履き、水を少な目にしましたが、30cm 以上潜ってしまい、慣れない足どりで苦戦しながらの作業でした。

根木内町会の方々の協力で、臼や杵を用意してもらい、お餅を 2 臼搗き、大根おろし・あんこ・きな粉などで、搗きたてのお餅を美味しくいただきました。
市長の特別参加もあり、根木内の養護施設「晴香園」の児童たちを招いてのお楽しみ会でした。
秋には収穫祭、年末にはお餅つきのお楽しみ会を計画し、来年の田植えでは子ども達にも田植えを体験してもらえるようにしたいと思っています。

関さんの森　最新ニュース

関さんの森エコミュージアム　武笠紀子

伐採される梅の木に捧げる詩

迂回道路予定地上の樹木の移植・伐採が始まりました。前回のニュースで、古木であるケンポナシやケヤキ・エノキの移植準備が始まったことをお伝えしました。これらの実際の移植は今秋から始まりますが、これに先立ちより若い樹木の移植が始まりました。移植される樹木は全体のごく一部で、大部分は残念ながら伐採されます。これは埋蔵文化財の本調査を行うため、樹木の根周辺を深く掘り返すことが困難になったためです。

特に毎年たくさんの梅の実をつけ、夏には涼しい木陰を作ってくれた予定地上の梅林の梅の木は、悲しい限りですがほとんど伐採される運命となりました。ながく関さんの森や私たちを見守ってくれた木々たちに感謝を捧げる詩を贈ります。これは私たち全員の思いです。

6 月末伐採予定の梅の木（2 月撮影）

【むつみ梅林の伐採される梅の木に捧げる詩】

花を愛し、木を愛し、全ての生き物を慈しんだ故関睦美さんの名前をもらった「むつみ梅林」

満開の梅林に人々は集まる。梅の実はみんなの手で収穫されて、梅酒に梅干しに。

梅の実を売って、梅干しを売って「関さんの森を育む会」の資金に。

貯まったお金で、ポスターをつくり、カラーチラシを配って、関さんの森が守られた。

伐られゆく、むつみ梅林の梅の木にありがとう。
関さんの森を守ってくれてありがとう。

すてきな森を子どもたちにありがとう。
関さんの森からありがとう。

特集　溜ノ上の森

溜ノ上レディース　渋谷孝子

皆さんは溜ノ上の森をご存知でしょうか？周辺を住宅に囲まれた小さな森ですが、樹や草の種類も多く（69種類の樹木を数えました）、森の中で自然散策することが出来ます。様々な虫たちとそれを食べに来る、エナガ、コゲラなどの小鳥達にも出会えることでしょう。

関さん所有のこの森はオープンイベントもしましたが、人手不足でなかなか整備が進みませんでした。2002 年に有志で樹木調査をしたときは、10m先も見通せないようなヤブになっていました。「この森の目指す姿は？」「伐採ゴミをどう処理するのが一番いいか？」「ウグイスのためのヤブはどこに残そうか？」・・・意見交換をしながら整備方針を立て、「育む会」の了解のもとに「生きもの達が棲める森」を目指し“自称レディー”達が白馬ならぬ自転車にまたがったナイト達の協力を得て整備活動をはじめました。

けれどシロウトに出来ることは限界があります。2007 年には近隣住宅に配慮して、高額の費用をかけて専門家による枝おろしも行われました。森を森のまま残してくれている所有者さんに感謝しつつ、せめて私たちに出来ることぐらいは頑張りたいと、下草刈りなどの整備や道路の落ち葉掃除、「溜ノ上便り」の隣接住宅への配布などを続けています。

最近ではゴミの不法投棄や犬の糞もぐっと減り、道や自宅の際の草刈りをしてくださるお宅も多くなりました。森で子供達が遊んだ様子があったり、時々保育園の小さなお客さんが森を訪ねてきたりするのも嬉しい事です。

近隣の方たちから大切に思ってもらえる森になるように願いつつ毎月第2水曜日、第4金曜日の2回10時から活動しています（雨天はお休み）。興味ある人が参加し、そして仲間になってきました。都合のつく日だけ無理せずに参加できる活動です。どうぞどなたでも遊びに、応援に来てください。

緑のネットワーク情報

夏には里山や緑の保全活動ボランティアが市民や子ども達のために様々なイベントを企画したり、応援したりします。（詳しくは担当者へお問い合わせください）

★7月4日(日)「金ケ作まつり」竹細工コーナー10時～15時
金ケ作小学校　【三樹の会】(早川 090-1596-2815)

★7月17日、18日「Let'S体験」受け入れ　森の保全作業とそうめん流し【関さんの森を育む会】(武笠 090-9365-9608)

★7月20日(火)ステップアップ講座「森の遊び」、「Let'S体験」受け入れ　【囲いやま森の会】(野口 345-6086)

★8月1日(日)「第5回森の楽校」、「Let'S体験」受け入れ
【囲いやま森の会】(野口 345-6086)

★8月3日(火)「虫ハカセになろう！」　虫捕りと観察会
根木内歴史公園　【根っ子の会】(三嶋 343-8041)

★8月7日(土)、17日(火)「Let'S体験」受け入れ
【囲いやま森の会】(野口 345-6086)

★8月7日(土)、23日(月)「Let'S体験」受け入れ　森で自然観察会、竹の伐採・竹切り・竹割り作業・竹炭の窯だしなどの体験、竹笛等の竹細工【三樹の会】(早川 090-1596-2815)

★8月8日(日)「夏休み子どもスクール」森のお楽しみ体験
金ヶ作 三吉の森　【テント小屋】(三嶋 343-8041)

★8月24日(火)「夏休み工作づくり」　竹細工やヨシズ編みなど　根木内歴史公園
【根っ子の会+三樹の会他】(三嶋 343-8041)

★8月26日(木)「みどりのボランティア体験」東葛看護学校学生受入れ。森で竹の伐採と草刈り作業
【関さんの森を育む会】(武笠 090-9365-9608)

★8月31日(火)馬橋小学校放課後児童クラブ主催の「夏休みさよならパーティー」で「流しそうめん」のお手伝い。三吉の森の竹を持ち込み、学童と共に設置し、約40人の学童と楽しみます。　【三樹の会】(早川 090-1596-2815)

★8月下旬「虫の音を聴く会」(予定)
【囲いやま森の会】(野口 345-6086)

～しぜんのコラム 11～

ハートのカメムシ

初夏のミズキの葉裏には、黄色いハート模様のカメムシをよく見かける。エサキモンキツノカメムシだ。“江崎紋付之亀虫”と誤って覚えられることもあるが、正しくは“江崎紋黄角亀虫”で、学名は *Sastragala esakii*　HASEGAWA となっている。学名にも“エサキ”の名があるが、これはオオムラサキを日本の国蝶にすることを提唱した、昆虫学者の江崎悌三博士のこと。続く“HASEGAWA”は命名者で、長谷川仁博士が、恩師の江崎博士を偲んで命名したようだ。

70～80 個の卵を保護するエサキモンキツノカメムシのメス。メスの背中のハート模様は白っぽいが、オスのハート模様は黄色い。
(2010. 6. 13 山田純稔, 下田の森にて)

ところで、ハート模様があるせいか、このカメムシの交尾はほほえましいが、“愛”はわが子にも注がれる。産卵後、母親は卵の上におおいかぶさり、アリなどの外敵から卵を守るのである。もんろん、カメムシ臭を出し、翅をバタバタさせて。さらに、“愛”は孵化後も続き、幼虫が独立するまでの約２週間は、餌もとらずにわが子を守っている。

幼虫が母親から離れて単独で生きていくのは、１回脱皮して、２齢幼虫になってから。そして、最後の脱皮を終えて成虫になるのは８月になってから。その後は成虫のまま秋を過ごして冬を越し、翌年の６月中旬頃に“愛”を営むことになる。

(山田純稔)

松戸のみどり　再発見ツアー⑥（観察学習会 30）

「八ヶ崎から幸谷へ、緑の回廊」

バス停水砂から幸谷の関さんの森まで、斜面林の緑を観察しながら歩きます。
寺社の見どころも多いコースです。午後は室内で振り返りの学習会です。

７ 月 11 日（日）　９：30～14：30　（小雨決行）　参加費３００円（バス代各自）

集合　新京成線常盤平駅改札口９：30 集合　**持ち物**　弁当、飲み物、雨具　（会員は参加費 100 円）

問い合せ　090-2935-9444（高橋）　※終了後に定例会をいたします。どうぞご参加ください。

緑ネット通信 No.30

緑のネットワーク・まつど
代表：川上将夫　　年会費：1000 円
連絡先：高橋盛男 047-367-2857
渋谷孝子 04-7153-5392

あつかった 2010年 夏
松戸の森では　子ども達のキラキラ笑顔が　あふれていました

この夏、子どもたちや親子連れなど一般の方が森に入って、ステキな自然体験をしました。
森を森のまま所有している所有者さんの理解とボランティアの活動の
両方があってのことです。
松戸の森・・・小さな森だけど　なかなかやるじゃない！

７月１４日　千駄堀の**しんやまの森**に八柱幼稚園の年長組みの園児（星組、月組、虹組）約 100 名と先生 4 名が訪れ、森の探検と生きものの観察をしました。カタツムリ、ミミズ、バッタなどを捕まえて、目を輝かしていました。

８月１日　常盤平駅から近い**囲い山の森**では２３名の親子連れが森の中で思い切り遊びました。レッツ体験でボランティア参加の中学生も一緒になって、みんなとっても楽しそうでした。

８月２３日、金ケ作の**三吉の森**では２回目のレッツ体験の中学生高校生１２名が参加。自然観察、井戸水体験、竹の伐採と片付け、竹炭の窯だしなど盛りだくさんの体験をしました。森の竹を利用しての流しそうめんは大好評。森の素晴らしさ、大切さにふれて、子ども達には良い夏休みの思い出になったことでしょう。

８月17日**囲いやまの森**で中学生高校生５名がボランティア体験をしました。

８月２６日**関さんの森**では看護学校の学生さんが訪れ、ボランティア体験。低地部分の整備作業をしてくれました。若いパワーでみるみるきれいになりました。下は作業前後の写真。

根木内歴史公園では今年も８月３日「虫ハカセになろう」８月２４日「工作づくり」が根っ子の会や三樹の会のボランティア達の力で行われました。先生と一緒に虫を捕まえて調べたり、森の材料でステキな作品を作りました。

松戸のみどり　再発見ツアー⑥
「八ヶ崎から幸谷へ　緑の回廊を歩く」

藤田　隆

2010 年 7 月 11 日（日）

松戸みどりの再発見ツアー⑥と題した「八ヶ崎から幸谷へ　緑の回廊を歩く」に参加した皆さんは 58 名でした。新京成線常盤平駅の９時、歩くのが楽しみと体からにじみ出るような、元気な皆さんが集まりました。当初の予定を変更し、９時 15 分発と 35 分発の馬橋行きバスに分乗して八ヶ崎の子安神社へ向かいました。子安神社では、

金谷寺裏から八ヶ崎の斜面林を望む

氏子の皆さんが集まり、夏祭りの準備で境内の清掃作業に余念がないようでした。長聖寺には珍しいシキザクラがありますが、季節はずれが少し残念でした。寺

は高台にあって、向かい側に見える八ヶ崎斜面林のトップの部分となる緑の波が、子安神社や長聖寺の緑と連なっているかのように見ることができました。境内を抜けると金谷寺への道は少し登りにかかります。両脇には最近５年くらいの間に立てられたと思しき家並みが立ち並び、一見、南欧かと思わせるような様子でした。

金谷寺の墓地から谷を挟んで向かい側の八ヶ崎の斜面林を見わたすことができます。子安神社、長聖寺、金谷寺のあるこのあたりは、岬のような台地が舌状に伸び、入り組んだ谷津からなりたっていることから「八ヶ崎」という地名ができたと言われています。その斜面の一部が開発されずに林で残っています。金谷寺から下りるとその唯一残された斜面林が姿を現しました。斜面林は丁寧な手入れの跡もあり、日の光が届いている場所では、多様な植物が息づいていました。倒木の心配や落ち葉、日当たりへの影響などもありますが、道一本隔てた住民の皆さんには何ものにも代えがたい緑を享受しているようでした。（追記：その後、斜面林の一部に伐採/開発があったようです。都市部にある樹林の大変難しい側面を感じます。）

斜面林から蘇羽鷹神社へ向かいました。蘇羽鷹神社は中世の頃より八ヶ崎から連なる豊かな緑の帯を眺めてきたのでしょうか、八ヶ崎から幸谷への斜面林のつながりをゆったりと見ているようでした。幸谷までの道のりは低地を畑地と住宅が入り組んで続き、標高差５メートルの急峻な斜面を一気に階段で上がりました。一部には「ささやきの小道」とも呼ばれているとのことでした。

斜面の上は幸谷観音で同一敷地内の福昌寺の観音堂として知られています。松戸市指定の文化財である「野馬捕りの絵馬」も奉納されているということでした。イチョウは円周３メートルを超える巨木で、モッコクは松戸市の保護樹林指定を受けていました。幸谷観音から武蔵野線を越え、関さんの森へと向かいました。３・３・７号線の計画道路を通すため、「子どもの広場」に生きるケヤキ、エノキの移植が決定し、「むつみ梅林」は全て伐採が進んでいました。迂回案を採択したため、関さんの自宅庭内の通過は回避されましたが、３・３・７号線の計画によって、梅林、子どもの広場、そして関さんの森は、その全体像を変えなければならい状況です。多数通過する車から排出される排気ガス、騒音の影響は計り知れません。この緑を守るために市民が結集し、行ってきたボランティア活動は継続していかなければならないと、関さんのお話を聞きながら思いを新たにしました。

関さんのお話

午後の学習会では、歩いてきた道を振り返り、６つのグループで印象をかたりました。斜面林、松戸の緑については、「斜面林は残すことによる大変さはあるが、持ち主、行政の力も必要だ」、「斜面林は緑が多いように見えるが松戸全体としての緑の度合いは意外に薄い」と緑を残すことについて行政の力も必要だとの意見が出されました。

関さん森に関連して、緑を残す活動については「関さんの森を残す活動に感動した」、「関さんの森の保全と道路問題が初めて結びついた」、「松戸の航空写真を見てさびしくなる。人間は森に後から入ってきたのだから落ち葉や暗くなることについては文句を言うのではなく、解決策を自分で考えるべき」など緑についての積極的な意見がありました。

歩きたいコースについては「各駅発のコース」、「河川と緑のコース」、「地域住民がガイドする私の松戸」などコース取りが今にもできそうな提案がありました。学習会は、参加者の緑に対する熱意が、討議するその表情に真剣さが表れ、時間を延長するほどでした。

関さん宅の門前で　記念撮影

緑のネットワーク情報

八ヶ崎の森　植樹祭のご案内

一起の会代表：高木

二年前、森で広い範囲の樹木の伐採がありました。森を大切に思い整備作業のボランティアをしていた里やま応援団一起の会にとっては大変ショックな出来事でした。しかしその後は、地域の皆様に親しまれる森作りに取り組もうと、森の再生を目指し、伐採後の森の片付けに汗を流してきました。再生の第一歩として「第１回植樹祭」を開催することとなりました。近隣の皆様にも森に入っていただき、森の再生育成への理解と協力をお願いしたいと考えています。
ご参加と応援を、どうぞよろしくお願いいたします。

日時：**１０月３０日（土）**午前 10 時～12 時（雨の場合は３１日へ変更）
場所：八ヶ崎の森（松戸東警察署の裏）集合
問い合わせ：一起の会　北山（047-342-8132）

～しぜんのコラム 12～

継子の尻拭い

秋になると、タデ科の植物を多く見かけるようになる、イヌタデ、ミゾソバ、ミズヒキ……。そんな中でも、変わった名前のタデ科植物がある。ママコノシリヌグイ(継子の尻拭い)である。この植物の葉や茎には、下向きの刺が生えていて、こんなものでお尻を拭かれたらたまらない。

ママコノシリヌグイの花
(2010. 8. 21 山田純稔, 下田の森にて)

ママコノシリヌグイの葉や茎に生えた下向きの刺
(2010. 8. 16 山田純稔, 関さんの森にて)

ママコノシリヌグイの茎は軟弱で、一人立ちできない。そこで、他の植物よりあえて遅れて発芽し、下向きのトゲで周囲の植物にひっかかりながら成長。茎を丈夫にすることにエネルギーを使わずに、上へ上へ、明るいところへと伸びていくのである。

それにしても“継子の尻拭い”とはよく名付けたもの。継母による幼児虐待。韓国では、この植物のことを“嫁の尻拭き草”と呼ぶらしいが、立派なドメスティック・バイオレンスである。　（山田純稔）

松戸のみどり　再発見ツアー9（観察学習会 31）

「八柱霊園の紅葉とゆいの花公園の緑をたずねる」

八柱霊園、ゆいの花公園は都市に作られた霊園と公園であり、貴重なみどりの宝庫です。７０年の歴史がある霊園と開園３年の植物公園を観察し、身近な市内のみどりについて考えましょう。

１１　月　２８　日（日）　9:30～14:30　（小雨決行）　**参加費３００円**（会員は 100 円）
集合　新京成線八柱駅改札口９：30 集合　　**持ち物**　弁当、飲み物、雨具
問い合せ　090-2935-9444（高橋）　　※終了後に定例会をいたします。ご参加ください。